

29pmG-059S

生体シミュレータを活用した薬学知識領域における新規教育手法に関する研究
○安齋 優実¹, 別生 伸太郎¹, 井上 みち子¹, 濱田 真向¹, 戸張 裕子¹,
武井 佐和子¹, 本多 静子¹, 水間 俊¹, 三溝 和男¹, 太田 伸¹(¹東京薬大薬)

【目的】臨床を意識した薬学知識領域の教育ツールとして、生体シミュレータを用いた新規学習方法の開発を目的とした。

【方法】生体シミュレータとして、ルールダル社の「SimMan3G」を用いた。過去に実施された薬剤師国家試験をベースとして問題を作成し、解答方法は各々の選択肢内容が示されたRadio Frequency Identificationタグを生体シミュレータにかざすことで行われるようにした。各問の身体所見・検査所見のうち、生体シミュレータで表現できるものは学習者が実際に生体シミュレータからバイタルサインなどを測定することによって値を得られるようにした。

【結果・考察】本研究を遂行するにあたっては、随所にゲーム性を取り入れ学習者の興味を持続的に引きつけながらも、医療人としての倫理を守ることを念頭におき問題作成を行った。生体シミュレータを用いる利点としては、1)患者への負担が発生せず、失敗が許される、2)症例や状況を自在に設定することができる、3)学習環境・条件設定の自由度が高い、4)多人数の学習者に均一の学習機会を与えることができる、5)学習者が自発的に学習できる、などが挙げられる。また生体シミュレータの使用によって、病態把握に必要な心音や呼吸音、血圧や呼吸数などを測定するための手技の練習も同時に行うことができるため、「知識」と「技能」を統合した学習として活用することができる。今後、既存の教育方法と比較した効果判定が必要であると考える。